

水害に備える

避難のための日ごろの備え /

1 非常持ち出し品を準備しておきましょう

避難所の備蓄品には限りがあります。各自で十分な準備をしておきましょう。



非常持ち出し品の例は、[38ページ](#)

2 避難先・避難ルートを確認しておきましょう

安全な避難先と避難ルートを、日ごろから逃げどきマップで確認しておきましょう。

逃げどきマップは、[8～25ページ](#)

家族で相談して、裏表紙の「わが家の避難計画（マイ・タイムライン）」も記入しておきましょう。

わが家の避難計画（マイ・タイムライン）は、[裏表紙](#)

浸水被害を軽減する方法

浸水に備えて日ごろからできることがあります。

側溝や排水溝の清掃をしましょう

雨水がスムーズに流れなくなると、雨水が溜まり、浸水が発生します。日ごろから側溝や排水溝の掃除をして、水はけを良くしておきましょう。



屋外の作業は大雨が降る前に

物干しおや物干し台は寝かせ、風で飛ばされそうな植木鉢やゴミ箱などは、室内に入れるなどしておきましょう。窓や屋根の補強などは、早めに終わらせておきましょう。



自家用車を早めに安全な場所へ移動しておくことで、水没を防ぐことができます。



エアコンの室外機や配線類の浸水による感電は、ブレーカーを落としておくことで防ぐことができます。



保険・共済に加入しましょう。

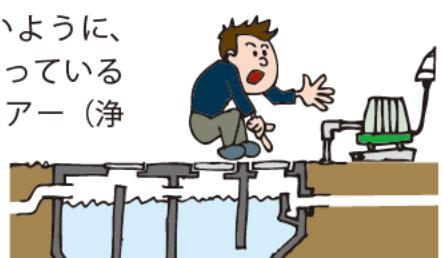
浸水被害からの生活復旧には、想像以上の費用がかかります。水害に対応した保険や共済に加入しておくことで、生活復旧への支援が受けられます。



日ごろから

大雨が予想される段階

浄化槽に土砂や泥が浸入しないように、浄化槽のフタがしっかりと閉まっているか確認しましょう。また、プロアー（浄化槽ポンプ）の電源を切り、高い場所に移動しておけば、故障を防ぐことができます。



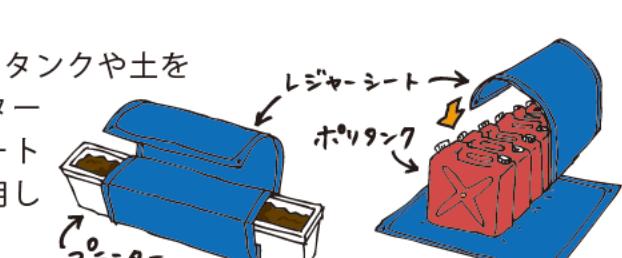
簡易水防工法で浸水を防ぎましょう

簡易水防工法は、家庭にあるものを使って家屋への浸水や流入を防ぐ方法で、水深が浅い段階では有効です。玄関などの出入口だけでなく、床下への浸水の防止も重要です。

出入口に板などを設置し、
浸水を防ぎます。



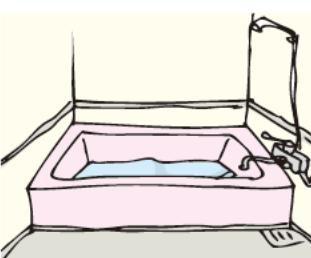
40リットル程度の容量のゴミ袋を二重にして、中に半分程度の水を入れて閉めます。これをダンボール箱に入れ、連結して使用します。



水を入れたポリタンクや土を入れたプランターをレジャーシートで巻き込み使用します。

思わぬ場所からの浸水を防ぎましょう

建物の周辺が浸水すると、下水が逆流して、排水口などから水が噴き上ることがあります。水を入れたビニール袋などを置くと、逆流を抑えることができます。



風呂の浴槽の水を流さずに溜めておくと、下水の逆流を防ぐことができ、生活用水としても利用することができます。

大事なものを高いところへ上げましょう

できる限り大事なものを浸水しない高いところへ上げておくことで、浸水被害を防ぐことができます。



当面の衣類など



通帳・印鑑など



家電製品



アルバムなど
思い出の品